

福祉避難丸ノ7^{NO.2}

宮城県仙台市宮城野区田子字富里223 2011年4月10日発行
 発行元: 宮城野の里内マルノ7福祉 △ 022-388-8777 FAX 022-388-8778
 発行責任者: 相馬由里(子葉) ※ ご意見・ご感想など連絡は maruSaku@miya.kou-Saku.or.jp

● 全国から人的支援きてます。

☆ 今まで支援に加わった都道府県 — 北海道・青森・山形・東京・愛知・茨城・大阪・奈良・千葉・兵庫・広島・神奈川・愛媛・沖縄 —

3/23(?) 北海道から始まったまる福の支援は全国から集まった支援者で輪を広げ沖縄にまで広がっています。日数は3日~5日くらいが平均でなかなかの遠路をとるのが難しい状況ですが、その中で1つずつたまたまきをつくり、支援に来た初日から力を出せるように頑張っています。

北海道、大阪からは継続的支援に入る事が決まっています。次回の支援者に必要な情報を提供する事で、必要な物資も直接持参できるなどつながりが増えていく。

☆ 支援物資の様子

全国から毎日のように沢山の物資が送られてきています。衣類や食料品などたくさん届きました。被災地としては恵まれた環境にあると思えますが、日常的な細々とした生活物品の中で不足しているものがまだまだあるように感じています。(ホリデントやシャンプーなど) また、全国の支援者達が持ち寄った、ご当地のものなどB級グルメも集まっています。

● 2回目の地震のこと。

4/7(木) 『ニュース ZERO』の放送をみながら見終わり、トイレに行った帰り、地震が起きました。全国からの支援物資(オマツ)が倒れてきて、埋れました。宮城野の里内は停電し、水も出なくなり、ローソクや懐中電灯でなんとか明かりを確保しました。私達はまる福の皆さんを守るのと同じにケアハウスの一室一室をまわり安全確認。そんな中で「私はここから動きたくない。このままでいいの」と話す方やどうしていいかわからず困っている方に冷静に対応しました。地元の職員の方には、「こんな時はとにかく寝て明るくなるのを待つだけだ」と言われしびしび体を休めましたが、余震も続きそれどころではありません。朝になり、15cm程度地面が落ちた事、トイレが壊れてしまったままなど状況は驚くばかり。3食、薪を焚いた、トイレの水はため水、エレベーターは無理など日常車にも大きく支障をきたしました。でも、でもでも地元の方は「また振り出しに戻ったのか」と肩を落とされた姿をみてやっぱり「こんな時だからこそ、まる福スタッフが「元気で楽しく明るくいなり」という思いで」ありました。

● 役割りをもちこと

福で暮らす方々は認知症があたり体の病気があたり(もちろんそうではない方もいます)。ちよこし不自由なあたりします。でも 皆さん地域で暮らしてきた、いわば「生活の達人」なので。震災からのショックの中 そゆでこゆから生きる皆さんは福でも徐ろに本来の生活をとりもどすべく 食事の準備、後片付け、掃除など 家内での役割り(亭主問白)を担ってくれています。皆さんの生活の再構築にむけて私たち福サポーターも皆さんも頼りながら一糸を頑張ります。

● Pswの役割り

福へ初めてPsw(精神保健福祉士)が支援に入ります。介護職の支援は心当たりと重なり、思ふ様に話を聞けないうち、Pswの関わりは日に日に皆さんの笑顔が増えるのを感じ、心の下の大地を強く感じました。Pswより支援者の皆さんへ。

← 頑張りますよは禁句です。もっと自分を甘やかしてあげましょう。

★ 発行責任者の相馬も 休日の夜やと外泊してお休みのご迷惑な心、安心ご祈り

● 手作りお祝い会

4/5(火) 夜8時から、皆さんに丸福も楽しいひとときを過ごして頂こうと思ひ手作りのお祝い会を企画しました。3/11の地震以降に誕生日を迎えられた方、4回目の結婚記念日を迎えたご夫婦のお祝い会です。何かお祝いしてほしいかと考え、支援物資のフルーツの缶詰からフルーツポンチを作り、色とり食材缶詰を作ったりと皆さんをお祝いしました。利用者さんが「美味しい」と笑顔で言ってくれた事がとても印象的でした。

福での生活が少しでも楽しく過ごせる様に...

全国各地から集まったスタッフがアイデアを出し合ひ新しい企画を考へ中です!!

次回も好期待!!